

日商簿記検定 2 級講座

工業簿記

【第 1 7 回】

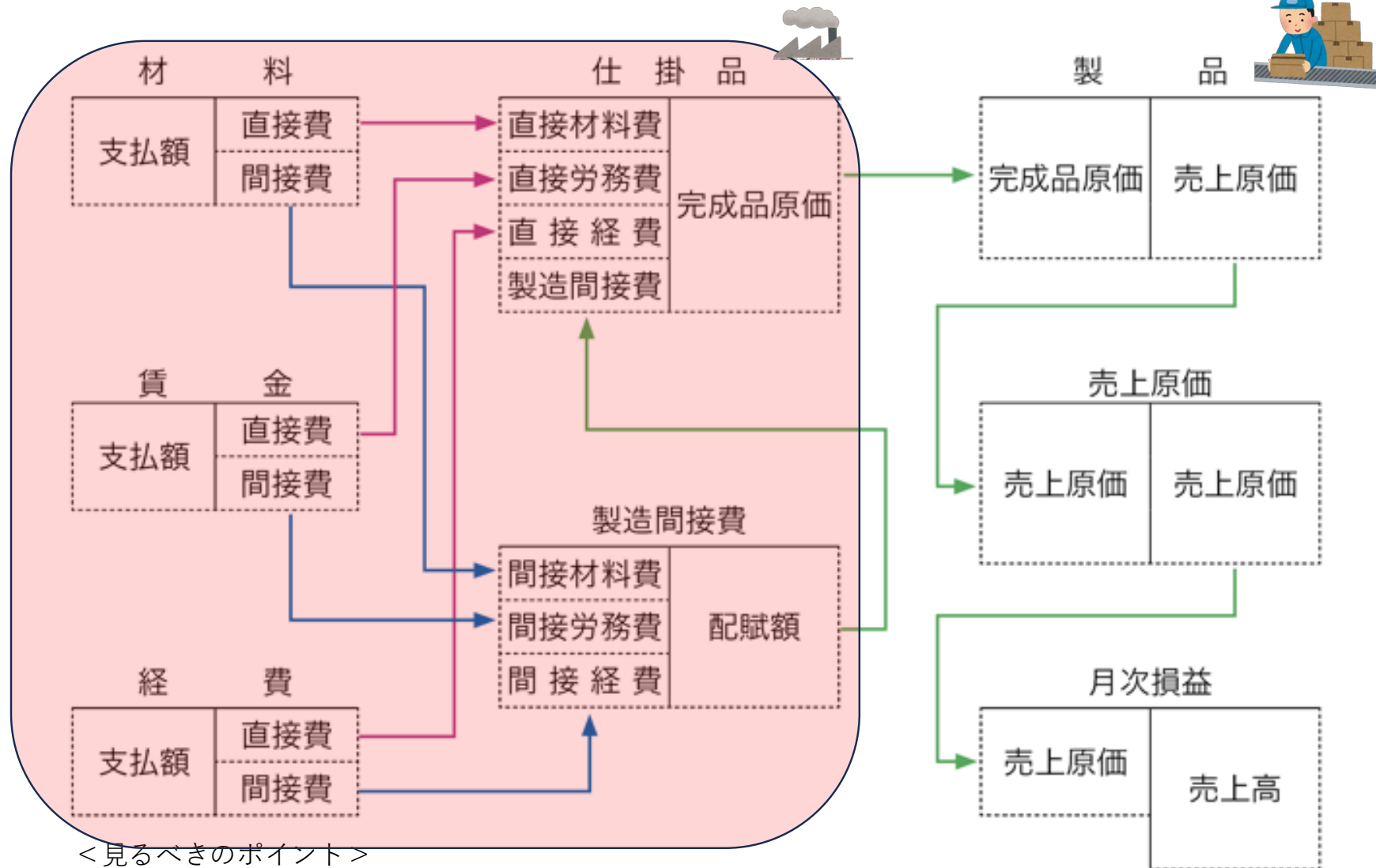
標準原価計算Ⅱ

第 1 7 回講義の内容

テーマ 1 9	標準原価計算Ⅱ	2 2 0 ページ
---------	---------	-----------



「勘定連絡図」(P63)を確認してください。



<見るべきのポイント>

- ①直接費と間接費で行き先が異なる
- ②間接費は製造間接費勘定を経由して配賦される。

1 標準原価計算とは (P206)

前回の復習

(1) 実際原価計算制度と標準原価計算制度について

実際原価計算が前提

(a) 実際原価か標準原価か? (b) 受注生産か見込生産か?

「**実際消費量**」
による原価

実際原価計算

(個別原価計算)P62



「**標準消費量**」
による原価

標準原価計算

(総合原価計算)P128



標準原価計算の目的とは

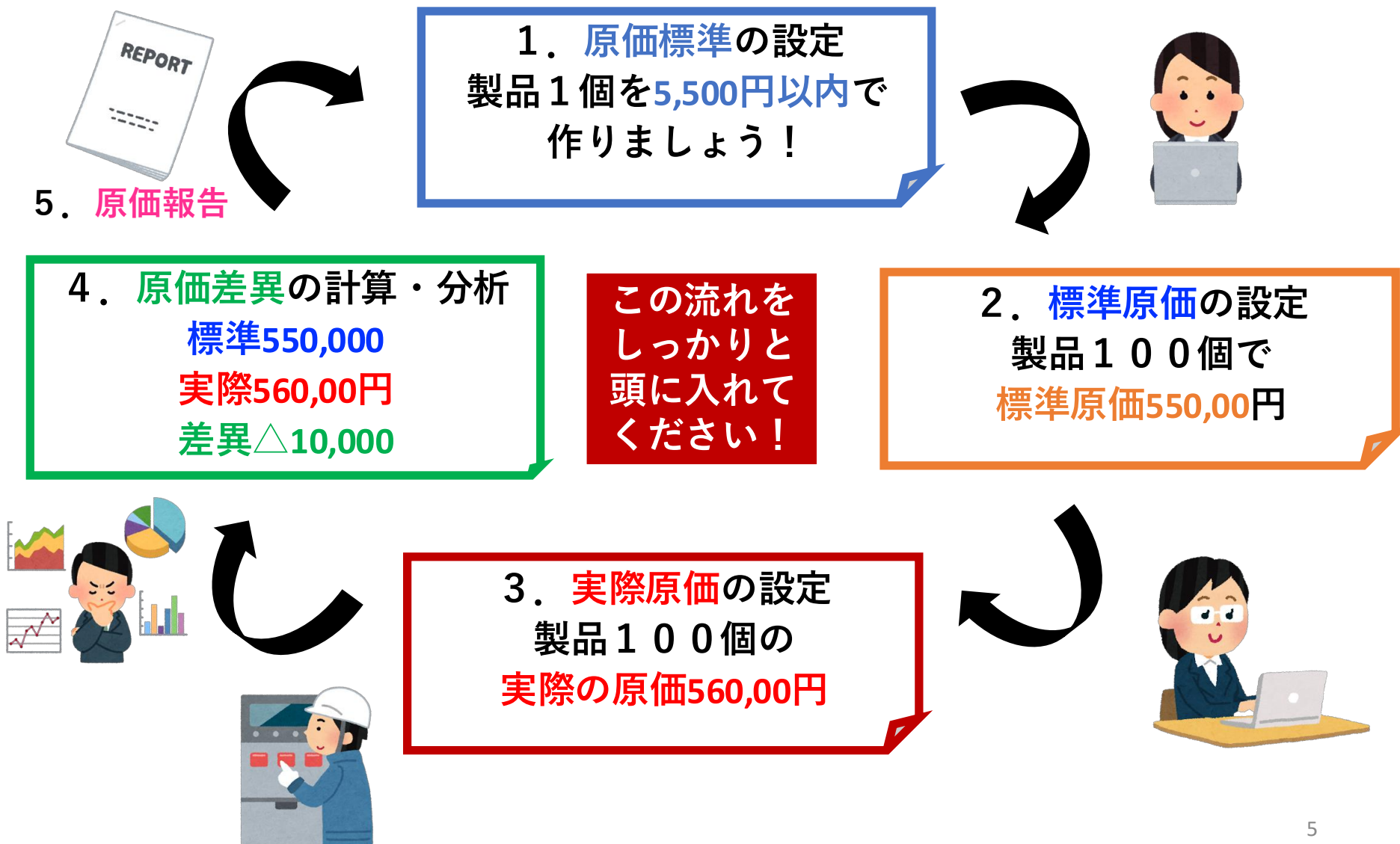
① 原価管理

② 財務諸表作成

③ 予算編成

④ 基調の簡略化・迅速化

2 標準原価計算の手続き (P206～207)



<設例18-1> 標準・総合原価計算 (P210)

標準原価計算（標準・総合）を採用している当社の次の資料により、完成品原価、月末仕掛品原価及び月初仕掛品原価を求めなさい。

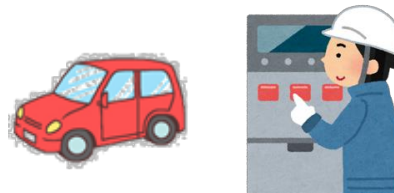
(1) 製品 1 個あたりの標準原価は、次のように「**標準原価カード**」にまとめられている。

	標準単価	標準消費量	
直接材料費	100円/kg	5 kg	500円
直接労務費	標準賃率	標準直接作業時間	
	200円/時間	1 0 時間	2,000円
製造間接費	標準配賦率	標準直接作業時間	
	300円/時間	1 0 時間	3,000円
製品 1 個あたり標準製造原価			5,500円



(2) 当月の生産実績が判明した

月初仕掛品	20個	(0.5)
当 月 投 入	120個	
合 計	140個	
月末仕掛品	40個	(0.5)
完 成 品	100個	



なお、材料はすべて工程の始点で投入している。
() 内の数値は「**加工進捗度**」である。

仕掛品

月初 () 個	完成 () 個
当月 () 個	月末 () 個

(2)勘定記入～仕掛品勘定

仕 掛 品

前 月 繰 越	製 品 ()
直 接 材 料 費 ()	次 月 繰 越 ()
直 接 労 務 費 ()	
製 造 間 接 費 ()	
()	()

< 設例18-2 > 勘定記入（パーシャル・プラン）（P213）

< 設例18-1 > の続き

標準原価計算を採用している当社の次の資料により、仕掛品勘定の記入を行いなさい。

(2) 原価データ

当月の**実際発生額**は次のとおりである。なお、仕掛品勘定の当月投入を**実際原価で記入**する方法（パーシャル・プラン）による。

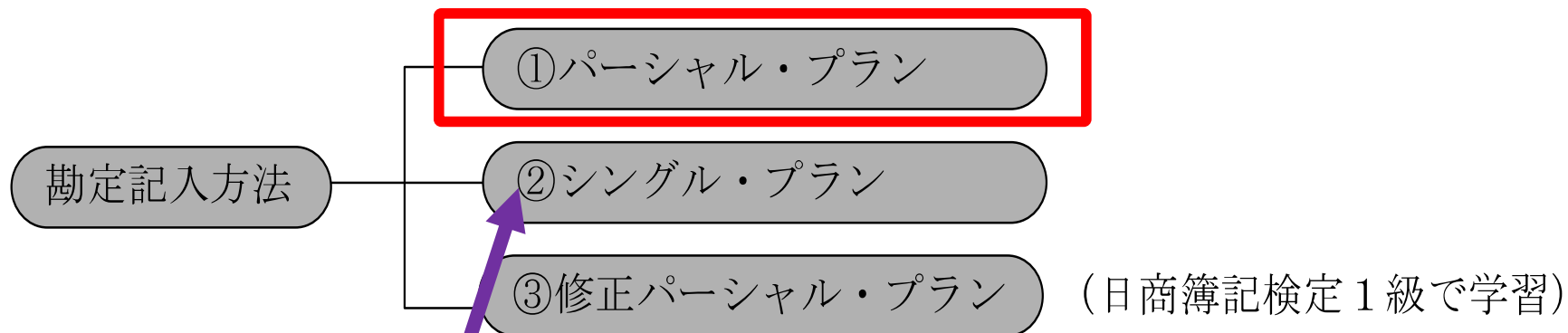
	直接材料費	加工費	
		直接労務費	製造間接費
当月 実際 発生額	68,200円	226,800円	350,000円

【解答欄①】 勘定記入～パーシャル・プラン

仕 掛 品			
前 月 繰 越	(60,000)	製 品	(550,000)
直 接 材 料 費	()	次 月 繰 越	(120,000)
直 接 労 務 費	()	原 価 差 異	()
製 造 間 接 費	()		
	()		()

5 勘定記入の方法（P212）

標準原価をどの計算段階において組み入れるか



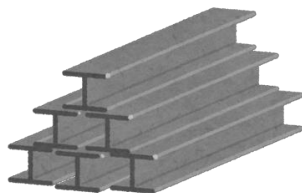
シングル・プランは
どんな勘定記入の方法だった？
（テキスト P 216）

テーマ19 標準原価計算Ⅱ

1 原価差異の計算 (P220)

標準原価カード (製品 1 個あたり)

原価要素別に	標準単価	標準消費量	
直接材料費	100円/kg	5 kg	500円
直接労務費	標準賃率	標準直接作業時間	
	200円/時間	10 時間	2,000円
製造間接費	標準配賦率	標準直接作業時間	
	300円/時間	10 時間	3,000円
製品 1 個あたり標準製造原価			5,500円



直接材料費



直接労務費



製造間接費

原価要素別に差異を把握する

全部の原価がごちゃ混ぜに
把握されている

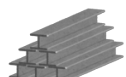
勘定記入～パーシャル・プラン

仕 掛 品		
前 月 繰 越	(60,000)	製 品 (550,000)
直 接 材 料 費	(68,200)	次 月 繰 越 (120,000)
直 接 労 務 費	(226,800)	原 価 差 異 (35,000)
製 造 間 接 費	(350,000)	
()		()

<設例19-1> 原価差異の原価要素別計算 (P220)

標準原価計算を採用している当社の次の資料により、原価差異を原価要素別に算定しなさい。なお、仕掛品勘定の記入方法は「**パーシャル・プラン**」を採用している。

(1) 製品 1 個あたりの標準原価カード



	標準単価	標準消費量	
直接材料費	100円/kg	5 kg	500円
直接労務費	標準賃率	標準直接作業時間	
	200円/時間	10 時間	2,000円
製造間接費	標準配賦率	標準直接作業時間	
	300円/時間	10 時間	3,000円
製品 1 個あたり標準製造原価			5,500円



1 台あたり5,500円が目標



(2) 当月の生産実績が判明した

月初仕掛品	20個
当月投入	120個
合計	140個
月末仕掛品	40個
完成品	100個

(0.5)



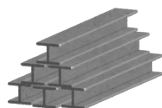
(0.5)



(3) 原価データ

当月の**実際発生額**は次のとおりである。

直接材料費	加工費	
	直接労務費	製造間接費
68,200円	226,800円	350,000円



なお、材料はすべて工程の始点で投入している。

() 内の数値は「**加工進捗度**」である。

1. BOXを書いて「数量」データを整理する

仕掛品－直接材料費（×1個500円）

月初	20個 (10)	完成	100個 (100)
当月	120個 (110)	月末	40個 (20)

直接材料費差異

仕掛品－製造間接費（×1個3,000円）

月初	20個 (10)	完成	100個 (100)
当月	120個 (110)	月末	40個 (20)

製造間接費差異

2. 実際と標準との差額で原価差異を算定する

仕掛品－直接労務費（×1個2,000円）

月初	20個 (10)	完成	100個 (100)
当月	120個 (110)	月末	40個 (20)

直接労務費差異

【解答欄】

勘定記入～パーシャル・プラン

仕 掛 品			
前 月 繰 越	()	製 品	()
直 接 材 料 費	()	次 月 繰 越	()
直 接 労 務 費	()	直接材料費差異	()
製 造 間 接 費	()	直接労務費差異	()
		製造間接費差異	()
	()		()

(2) 実際原価を使うことの問題点 (P206)

→①原価管理に限界がある ②計算の遅延

【参考】原価管理とは何か？

「原価管理」には一般的に次の2つの意味があるとされている。

原価管理
の意味

①コスト・リダクション
(原価計画または
原価低減)

所与の生産諸条件を前提とした統制だけでなく、生産諸条件そのものの変革をともなう総合的な原価計算および原価の統制活動を意味する。**原価の標準自体を引き下げようとする考え方。**

②コスト・コントロール
(狭義の原価管理または原
価維持)

所与の生産諸条件を前提として、達成可能な標準を設定し、この目標に従って実際の作業の実施を統制していこうとするもの。**実際の原価を標準原価にまで引き下げる**こと。

なお、標準原価計算は、②コスト・コントロールの意味

原価引き下げ20円
(②コスト・コントロール)

標準原価
100円
(目標)

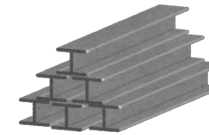
実際にかかった原価
120円

2 直接材料費・労務費差異の分析（P222～226）

勘定記入～パーシャル・プラン

2つの側面に分けて分析

仕 掛 品	
前 月 繰 越 (60,000)	製 品 (550,000)
直 接 材 料 費 (68,200)	次 月 繰 越 (120,000)
直 接 労 務 費 (226,800)	直接材料費差異 (8,200)
製 造 間 接 費 (350,000)	直接労務費差異 (6,800)
	製造間接費差異 (20,000)
(705,000)	(705,000)



単価 × 消費数量



賃率 × 作業時間

<設例19-2・3> 原価差異の分析（材料費と労務費の部分）（P223・225）

<設例19-1>の続きで、直接材料費と直接労務費の実際発生額の内訳は次のとおりとの報告があった。

(3) 原価データ

当月の**実際発生額**は次のとおりである。

実際発生額	内 訳
直接材料費：68,200円	実際単価110円/kg × 実際消費数量620kg
直接労務費：226,800円	実際賃率210円/h × 実際作業時間1,080時間

1. 直接材料費の差異分析（BOX図を使って解く方法）

< 設例19-1：(1)標準原価カード >

原価要素別に	標準単価	標準消費量	
直接材料費	100円/kg	5 kg	500円
直接労務費	標準賃率	標準直接作業時間	
	200円/時間	1 0 時間	2,000円
製造間接費	標準配賦率	標準直接作業時間	
	300円/時間	1 0 時間	3,000円
製品 1 個あたり標準製造原価			5,500円

仕掛品－直接材料費（×1個500円）

月初	20個 (10)	完成	100個 (100)
当月	120個 (110)	月末	40個 (20)

【直接材料費の差異分析図】

実際@ 円
標準@ 円

消費価格差異 円（ 差異）	
標準直接材料費 @ 100 × 600 kg = 60, 000 円	消費数量差異 円 (差異)

標準消費量 kg 実際消費量 kg

2. 直接労務費の差異分析（BOX図を使って解く方法）

< 設例19-1：(1)標準原価カード >

原価要素別に	標準単価	標準消費量	
直接材料費	100円/kg	5 kg	500円
直接労務費	標準賃率	標準直接作業時間	
	200円/時間	1 0 時間	2,000円
製造間接費	標準配賦率	標準直接作業時間	
	300円/時間	1 0 時間	3,000円
製品 1 個あたり標準製造原価			5,500円

仕掛品－直接労務費（×1個2,000円）

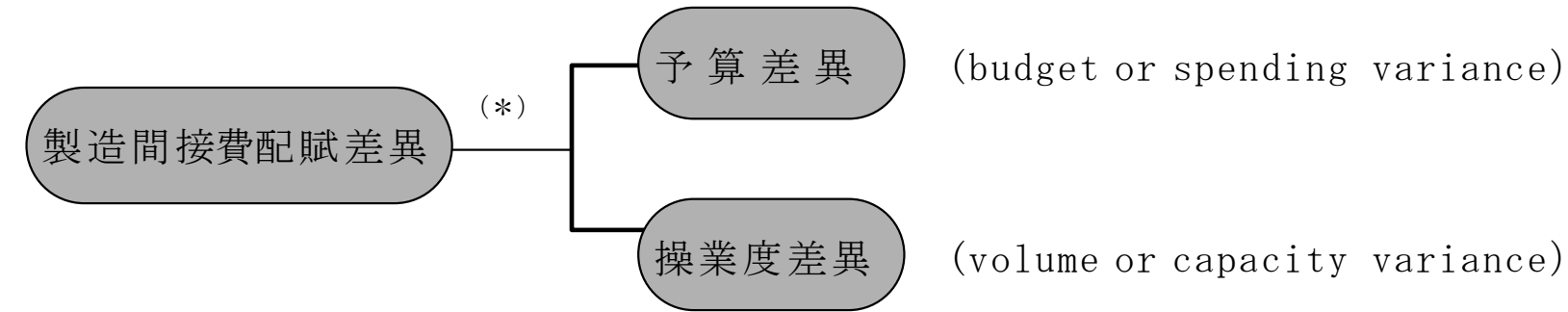


月初	20個 (10)	完成	100個 (100)
当月	120個 (110)		
		月末	40個 (20)

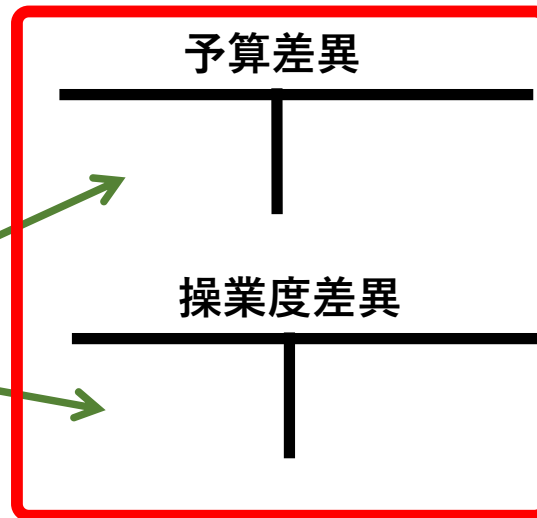
【直接労務費の差異分析図】 P225 参照

→ご自身で BOX 図を描いてみてください（試験で書くことになります）。

製造間接費配賦差異の中身について (P 86) 第7回講義「個別原価計算Ⅱ」



製造間接費からは差異は3つに分析できる！



+ 能率差異
(**実際**操業度と**標準**
操業度の差)

<設例19-4> 原価差異の分析（製造間接費の部分）（P228）

<設例19-1>の続きで、製造間接費に関する資料は次のとおりであった。

(1) 標準原価カード（1個あたり）

原価要素別に	標準単価	標準消費量	
直接材料費	100円/kg	5 kg	500円
直接労務費	標準賃率	標準直接作業時間	
	200円/時間	10時間	2,000円
製造間接費	標準配賦率	標準直接作業時間	
	300円/時間	10時間	3,000円
製品1個あたり標準製造原価			5,500円

(2)(1)の標準原価における製造間接費の標準配賦率は、下記の予算額をもとに算定されている。

製造間接費の年間予算額：4,320,000円 基準操業度（年間）14,400時間 **標準配賦率300円**

予算設定方法：公式法変動予算（P86）、上記予算額のうち**固定費は2,880,000円**と

見積もられており、**変動費率は100円/時間**となっている。

(3) 原価データ

当月の**実際発生額**は次のとおりである。

実際発生額	内 訳
製造間接費：350,000円	実際直接作業時間1,080時間

仕掛品－製造間接費（×1個3,000円）

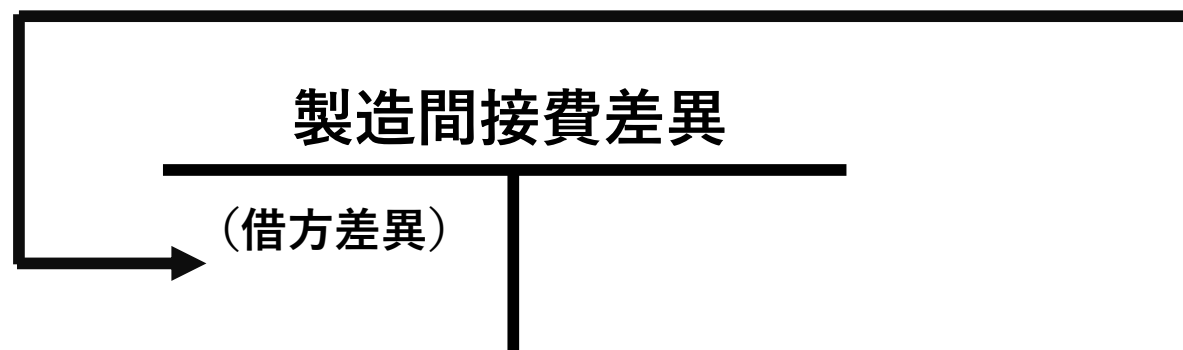
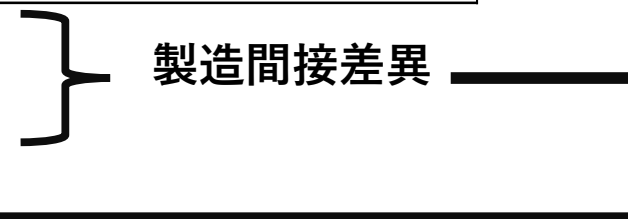


標準原価
30,000

月初	20個 (10)	完成	100個 (100)
当月	120個 (110)	月末	40個 (20)

標準原価
300,000

標準原価
60,000



(借方) 製造間接費差異	(貸方) 仕掛品
--------------	----------

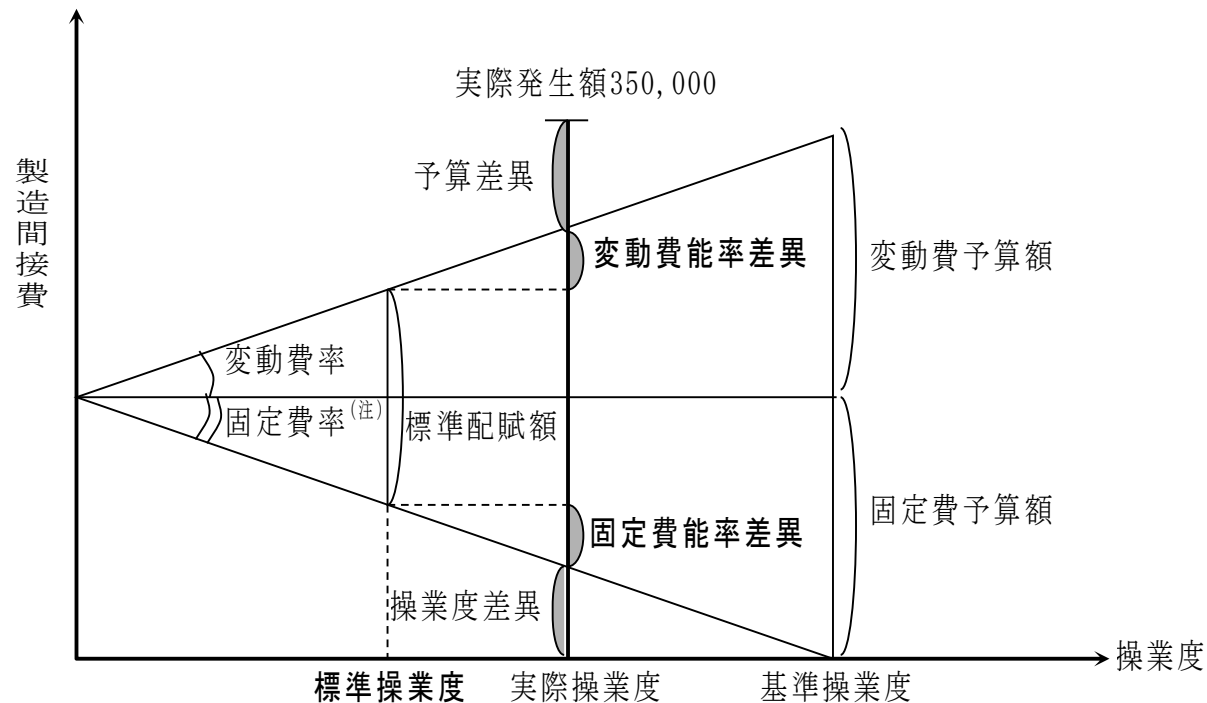
1. 製造間接費の差異分析（シュラッター図を使って解く方法）

原価要素別に	標準単価	標準消費量	
直接材料費	100円/kg	5 kg	500円
直接労務費	標準賃率	標準直接作業時間	
	200円/時間	10時間	2,000円
製造間接費	標準配賦率	標準直接作業時間	
	300円/時間	10時間	3,000円
製品1個あたり標準製造原価			5,500円

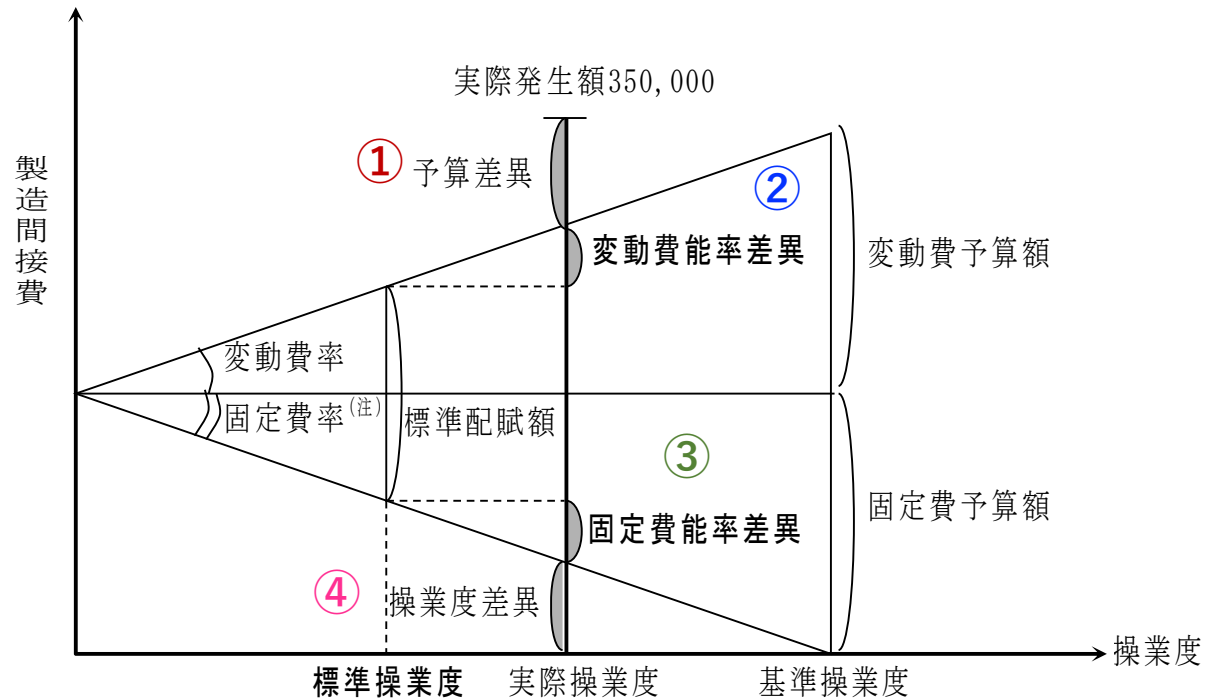
仕掛品－製造間接費（×1個3,000円）



月初	20個 (10)	完成	100個 (100)
当月	120個 (110)	月末	40個 (20)



2. 製造間接費の分析方法P227



	4 分 法	3 分 法(1)	3 分 法(2)	2 分 法
①	予 算 差 異	予 算 差 異	予 算 差 異	管 理 可 能 差 異
②	変 動 費 能 率 差 異	能 率 差 異	能 率 差 異	
③	固 定 費 能 率 差 異		操 業 度 差 異	操 業 度 差 異
④	操 業 度 差 異	操 業 度 差 異		

<設例19-1>

1. BOXを書いて「数量」データを整理する

仕掛品－直接材料費（×1個500円）

月初	20個 (10)	完成	100個 (100)
当月	120個 (110)	月末	40個 (20)

直接材料費差異

価格差異

価格差異

仕掛品－製造間接費（×1個3,000円）

月初	20個 (10)	完成	100個 (100)
当月	120個 (110)	月末	40個 (20)

製造間接費差異

予算差異

能率差異

操業度差異

2. 実際と標準との差額で原価差異を算定する

仕掛品－直接労務費（×1個2,000円）

月初	20個 (10)	完成	100個 (100)
当月	120個 (110)	月末	40個 (20)

直接労務費差異

賃率差異

時間差異

<標準原価計算のまとめ>

①標準原価の設定P190

直接材料費@100×5kg=500
直接労務費@200×10時間=2,000
製造間接費@300×10時間=3,000
1個あたり製造原価5,500

②標準原価の計算P191

材 料

買掛金×× 実際68,200

③実際原価の計算P194 (パーシャルプラン)

実材68,200
実労226,800
実製350,000

賃 金

現金×× 実際226,800

製造間接費

間接材料費×× 実際350,000
間接労務費××
間接経費××

実単110
標単100

実賃210
標賃200

材料費 (P200)

価格差異△6,200(借方差異)	数量差異△2,000 (借方差異)
------------------	----------------------

標消600kg 実消620kg

労務費 (P202)

賃率差異△10,800(借方差異)	時間差異+4,000 (貸方差異)
-------------------	----------------------

標時1,100H 実時1,080H

製造間接費 (P204)



標線1,100H 実線1,080H 基線1,200H

仕 掛 品

標60,000

月初20
(10)

完成100
(100)

当月120
(110)

月末40
(20)

原価差異
35,000

標120,000

製 品

月初20

販売110

完成100

月末10

標605,000

標55,000

④差異分析P200~207

価格差異	6,200
数量差異	2,000
賃率差異	10,800
時間差異	4,000
予算差異	2,000
操業度差異	24,000
変動費能率差異	2,000
固定費能率差異	4,000

実際原価
に修正
賦課

売上原価

標605,000
時間差異4,000
変能率差異2,000
固能率差異4,000
価格差異6,200
数量差異2,000
賃率差異10,800
予算差異2,000
操業度差異24,000
実際原価
640,000

⑤原価報告P210

月次損益計算書

I 売上高	1,100,000
II 売上原価	
1 月初製品棚卸高	110,000
2 当月製品製造原価	550,000
3 月末製品棚卸高	55,000
差引	605,000
4 原価差異	
価格差異	+6,200
数量差異	+2,000
賃率差異	+10,800
時間差異	-4,000
予算差異	+2,000
操業度差異	+24,000
変動差異	-2,000
固定差異	-4,000
	+35,000
	640,000

売上総利益460,000